

パブリックイシュー委員会からの報告

CCA（アジアキリスト教協議会）第14回総会が、2015年5月20日から27日までジャカルタで開催された。総会は、私たち全員が「神の家族として共に歩む」ものであると確認し、互いに話を聞き、重荷や悩みを共感しあい、喜びを祝いあい、懸念事項を表明しあう場である。

総会において、アジアの各教会の代議員は、以下の課題を出し合った。私たちはこれらの課題を委員会に提案した人々に代わってここにまとめたが、CCAとそのメンバーが今後のプログラムの計画段階にこれらの課題を重要事項として取り込むことを望む。

この報告は、今日アジアが直面している問題を網羅し、または、完全に挙げたものではないが、私たちの心にある懸念事項であり、神の家族として、すべての人々が喜びと正義の中で暮らしているわけではないという現実を指摘している。私たちは、CCAの協議会及び教会メンバーとして預言者に倣い声を上げる。私たちは、沈黙してはならない。神は、私たちに、聞き、見て、話し、同様に、後に続く課題や、将来私たちの注目するところとなる課題に対応するよう呼びかけている。

受難の人々

人身取引

人身取引は、社会的、政治的、文化的、経済的な面で、深刻な影響を持つ。人身取引及び地球規模で行われる人の命の取引は、まさに、国家を超えた問題であり、神に与えられたそれぞれの人の価値の否定で、人生を破壊するものである。人は取引される時、商品化され、取引の対象物として扱われ、商業的価値で評価される。

人身取引業者の犠牲に最もなりやすいのは、圧倒的に、貧しく、社会から取り残されていたり、教育を受けていないか、無国籍であるような女性や子ども達である。人身取引と戦うNGO「ノット・フォー・セール」は、今日、世界中で3580万人の人々が、奴隷化されていると推定している。現在、過去のいかなる時期よりも多くの奴隷が存在しているのである。

より大きな問題となりつつあるのは、非常に若い女性が、貧困のため、人里離れた田舎に住み、時には肉体的または精神的な障害を持つ、それまで結婚できなかった年老いた男性に嫁ぐことである。彼女達は、家族に送金し、家族の貧困を緩和するため、こういう選択をせざるを得ないのである。このような結婚は、貧困の罠である。

人身取引の収益は、年間およそ 1500 億米ドルである。この問題は法律のみで解決できることではない。その経済的な基盤について検証し対策を講ずる必要があり、教会は人身取引の収益性を破壊する役割を果たすべきである。

私たちは、家族を壊し、HIV/AIDS の拡大を悪化させる性目的の人身取引が与える影響も認識している。また強制売春と、犠牲者をより従順にするため薬物を与える強制的薬物中毒との関連を認識している。拡大する人身取引問題に取り組むことは、非常に重要なことである。私たちは、アジアの教会として、崩壊した地域社会を修復し、犠牲者を家族の元へ帰し、すべての人が真に神の家族として一体となるために、尽くさなければならない。この問題に対応できなければ、それは全人類に深刻な影響を与えるものであり、私たちは、CCA が、国際及び国内レベルの可能な解決策について、祈りを込めて検討するよう強く要請する。

強制移住

世界経済のグローバル化は、人身取引を含む、闇の経済が繁栄する状況を生み出し、そのため、ものと人の両方の移動が大きく増加した。途上国の人々は、他の人がやりたがらない、「汚く、危険で、屈辱的な」仕事を低賃金で請け負う労働力として、より発展した国へ移り住むという流れの中心にある。2013 年には、2 億 3200 万人の人々、つまり、世界人口の約 3.2% の人々が、出生国の外で暮らしており、1990 年の 1 億 5400 万人に比べ、大きく増加している。

性目的の人身取引と労働者取引の境目は、多くの場合曖昧である。多くの女性がウェイトレスやサービス業従事者として勧誘され、現地に到着するやいなや、売春を強要され、渡航文書を没収されたり、脅しや暴力を受け、斡旋業者に対する負債を負わされることになる。彼らは、搾取的な労働環境を体験している。たとえば、建設労働者と家事労働者がある国と契約したところ、実は最初から他の第三国へ行くように仕組まれていたということもある。

代理母出産

科学の急速な発展と新たな技術の発明により、欧米人や富裕層の家庭の子どもを妊娠、出産することで賃金を得るアジア人女性の数が増えている。これは、いくつかの国、特に、インドとタイにおいて拡大しつつある問題である。それらの女性たちに対する非人間的影響は大きく、このような代理出産によって生まれた子どもへの影響は計り知れないものがある。

女性達が直面する貧困が、身体を売ることを余儀なくさせ、妊娠に至らせるという状況を作り出す。彼女たちの多くが、これを仕事とし次々と子どもを出産している。これは、女性達の尊厳と家族の生活に影響を与えており、神から授かった神聖な命の否定である。

臓器売買

深刻な健康上の問題を抱える人々への臓器提供は、世界的に不足している。この不足が、特に中国と他のアジア地域における、人間の臓器を取引する闇市場を作り上げた。アジアのいくつかの国では、人が姿を消し、二度と消息が分からないということが起きる。彼らは臓器のために殺されたのではないかと思われる。この問題は、高まりつつある懸念事項であり、調査と捜査が必要である。

女性、子どもおよび若者に対する暴力

この地球上に住む誰も、暴力の犠牲にはならない。暴力というものは、それに晒される人々の人権一家族の、教会の、社会のあるいは国の一員として生きるという神に与えられた権利を否定するものである。また、暴力は人々の創造力、人間らしさ、自由や意思決定力を著しく阻害する。暴力は、さまざまな様相をもってこの社会に表出している。死、搾取、差別や抑圧、強制移住、人身取引、戦争などがその例である。紛争や戦争は、私たちの日常生活を大きく破壊する。多くの人々が故郷を追われ難民となっている。

さまざまな形を持って現れる暴力を引き起こす要因として、グローバル化やそれに伴う民営化、帝国主義などがある。これらによって、富めるものはさらに富み、貧しいものはさらに貧困化するという構造が出来上がってしまっている。また、家庭もさまざまな暴力一性的、精神的・心理的、身体的な虐待を近親者が受ける場となってしまっている。暴力を最も受けやすいのは、女性たちや子どもであり、人を身体的、精神、心理的に追い詰めて人間性を奪ってしまう。つまり暴力に苛まれた結果、その人の個性、幸福、健康をも奪ってしまうのである。

アルメニア人に対する大虐殺

1915年から1916年にかけて、150万人に及ぶアルメニア人が殺害され、また数千人以上が現在のトルコ、当時のオスマン帝国からの強制移住または追放を余儀なくされた。アルメニア人たちは今でも自分の祖先が受けた苦しみや非人道的な処遇に対して承認や賠償を求めている。次に引用するのは2015年4月24日、アルメニア人に対して行われた大虐殺を覚えるため100年の節目の年に発表されたCCA声明文の一部抜粋である。

「私たちアジアキリスト教協議会のメンバーたちは、アルメニア人教会の兄弟姉妹が受けた深い悲しみや苦痛とともにありたい。アルメニア人の祖先に対して行われた虐殺を覚え、その非人道的な扱いに対して憤慨を示す。私たちはアルメニア人に対する大虐殺がファシスト的で意図的な民族浄化の行為であり、また伝統的な文明や文化に対する破壊であると認識している。だがその一方で私たちが忘れてはならないのは、この地球上に生きるアルメニア人たちの存在こそが信仰を持つ人々の不屈の精神と強さの象徴であるというこ

とである。アルメニア人の勇気、信仰と希望は絵画や書籍、その他の記念品といったものを通して生かされ続けている。彼らの命を懸けた物語は、今この瞬間に暴力の犠牲になっている数百万の人々を慰め、また勇気づけるものとなる。」

アジア太平洋地域における難民と強制移住者

保護を求めて国境を移動せざるを得ない人々の現実を私たちは直視すべきである。多くの人が無国籍となり、また民族的あるいは宗教的な紛争により身体的保護を求め移住を強いられている。

このような人々を受け入れない政策を展開している国もあり、このことが安全を求める難民たちの移動に多大なリスクをもたらしている。実際この総会でタイ、マレーシア、インドネシアの国々に移住を求めるロヒンギャの人々が悲劇的な扱いを受けていることが語られた。

私たちはこの地域の国籍を持たない人々が難民や亡命者としての認定を受け、またそれに関し再定住や本国送還までの間の、身体的な安全と尊厳を守るための定住プログラムを要請する。

聖書には次のように書かれている。「あなたは寄留者を虐げてはならない。あなたたちは寄留者の気持を知っている。あなたたちは、エジプトの国で寄留者であったからである。(出エジプト記：23章9節)(引用：日本聖書協会「新共同訳」)よってCCA総会、は移住を強いられる人々、難民、亡命申請者のニーズに応える地域的なアプローチを支持することを表明したい。そのために、アジアキリスト教協議会また各教会に対し、難民としての受け入れを求める人々の声に耳を傾けていくこと、またこの地域の国々で再定住の受け入れが進んでいくようにはたらきかけていくことを要請したい。

私たちはアジアキリスト教協議会に以下の事を勧告する。

「神の家族として共に歩む」という考えのもと、これからの5年間人身取引の問題を優先すること。教会はその犠牲となっている人々が身体的、心理的・精神的に解放されるようにはたらきかけること。

1. 奴隷労働、強制労働、売春を理由とした人身取引が今日行われているという情報を各教会や地域社会に提供する教育や啓発プログラムなどを各国で行うこと。
2. できるだけフェア・トレードの商品を購入するよう地域社会に推奨すること。特に、チョコレートやコーヒーの生産においては強制労働によってブローカーが利益を得ているケースが多く、フェア・トレードの商品を積極的に購入することによって人身取引の仲介者に少しでもダメージを与えるべきだ。

3. 国内外のネットワークを通じ、各国の政府や司法にあらゆる人身取引に対処するようにロビー活動を行うこと。
4. 人身取引に苦しんだ人々の声や、明らかにされてこなかった抑圧がより多くの人の耳に入るようにフォーラムを企画したり、あるいはその場所を提供したりすること。
5. 巧妙な手口の人身取引、代理母出産、子どもを搾取した強制労働など、今後もさまざまな人身取引のケースについての調査研究を続けていくこと。人権やジェンダーの平等、また暴力を根絶できるような体制、政策の構築に関する教育を行うこと。
7. この地域における人身取引の被害者を支援していくためメアリー・ジェーン・ヴェロソ (Mary Jane Veloso) のケースの際にフィリピンとインドネシアの教会が行ったような方策を作ること。
8. この地域の人々への暴力を永続化させている社会勢力やシステム、構造を告発すること。
9. 各教会や協議会が、あらゆる人々は神の計画の下に造られている、という私たちの理解を反映する方針のもとに活動すること。そしてこの活動を通して社会にある女性、若者、子どもへのあらゆる暴力を根絶するために活動すること。

アジア太平洋における平和と安全

ここ数年のアジア太平洋地域における地政学上および軍事上の展開は、この地域における軍事と防衛の情勢を変化させてきた。

これには次のことが含まれる。つまり、米国が防衛上、「アジアへの回帰」と言われた政策を再重視すること、米国と他の多くの国との間の共同安全保障合意の再交渉、アジア諸国への米軍配備とアクセスの拡大、国連海洋法条約に基づき自国の権利を主張する国々により起こる南シナ海における緊張関係の高まり、中国の軍事力増強とこの地域における軍事介入の増加などである。

北および東南アジアの軍事化

北および東南アジアにおけるキリスト教界は、特に米国が活発に軍事活動を増強させてきたことに深い懸念を示している。この米国の軍国主義と干渉主義は、基地建設、軍事支配と軍隊の輪番配備、日本と韓国を含む同盟国との共同軍事演習などがこのところ増大していることに現れている。

具体的には韓国のチェジュ島の大規模な海軍基地の建設や、京都における基地建設の計画、北朝鮮海域における軍事演習、相互情報交換兵器システム演習、韓国における THAAD (終末高高度防衛) システムの実質的な配備調査、フィリピンにおける EDCA (防衛協力強化協定) の締結、そしてこの地域全体における反中国感情の高まりなどの問題が挙げられ

る。米国は日本、韓国およびインドネシアに展開する約 225 の基地に 67,000 以上の兵士を有する。またタイには駐留軍を有し、シンガポールとはアクセス合意を交わしており、フィリピンの南では実際の戦闘地域において軍事演習を展開している。日本だけで 80 以上の米国軍基地および施設を保持している。オーストラリア、ダーウィンに米国軍艦を常駐させる計画もある。

残念なことに、最近、日本の首相安倍晋三は平和憲法 9 条を再解釈し、自衛隊の機能を、日本国外においても同盟国の軍隊を支援して共通の敵と戦うことができるよう再定義した。

ミャンマーにおける平和と正義

ミャンマーにおける政府と少数民族武装勢力との和平会談は、始まったばかりである。かつてこのような話し合いが失敗に終わったことにより、未だにカチン族を含む少数民族に今日においても大きな痛みと苦悩を与え続けている。最近では、ラカイン州およびコーカン自治区で武力衝突が起きた。カレン州においては軍が日程をコントロールしているため平和交渉は未だ始まっていない。

ミャンマー国民は、すべての人のためになる合意を模索している。教会と地域社会は、難民と国内避難民の定住の準備に時間と支援を必要としている。

本当の平和は、地域社会がこれまでの経験を集め共有し、将来への問題解決策の道筋を作るための新しいビジョンを作り出す時に、はじめて訪れるであろう。ミャンマー国民はまた国の環境と人々及び地域社会の権利を尊重し、地域社会の土地と暮らしを尊重する、持続可能な国土と天然資源開発を必要としている。

西パプアにおける平和と人権

私たちは神の家族として一つである。したがって差別はなく、すべての人は守られそして愛されるべきである。人権が侵害されるとき、神の家族という信条は否定され人々は苦しみ差別される。

西パプアの人々は、1963 年のインドネシア共和国への統合の影響下に暮らしている。それ以来、人権は犯され、社会的人的開発は軽んじられている。そして貧困の中で生きる人々は、自分たち自身の未来を決定する意思を伝える手段がない。

アジアの教会は、パプアの人々が正義、平和、尊厳と安全のうちに生きられるよう、インドネシア当局とパプア独立賛成派間の緊張状態を終わらせる方法を模索している。私たちは西パプアに人々が自分たちの未来は自分で決めたいという叫びを聞いて、この希望を支持したいと考えている。

原理主義的信仰の隆盛と暴力

あらゆる宗教における原理主義の隆盛は人々が生き働く環境を変えている。原理主義は孤立、コミュニケーションの欠落、信仰の自由と多様性の欠如につながる。アジアの一部の国々では ISIS の台頭やイスラム原理主義の広まりにより、この問題が悪化している。

この問題がもたらした緊張関係により、パキスタン、インド、スリランカ、タイ、インドネシアの教会が爆破され、キリスト教徒が亡くなった。マレーシアでは国内におけるイスラム教化の増大により、教会やキリスト教徒は自由の剥奪を経験している。これはイランにおいても同様で、キリスト教界での迫害が増加していると指摘されている。多くの国でキリスト教界は周縁化され、少数派にされることで攻撃されやすくなっている。

私たちはイエス・キリストが私たちの平和であり、全ての人々に正義と豊かな人生をもたらす希望であることを明言する。したがって私たちは軍備増強への依存、人間の安全保障への脅威、アジアにおける原理主義者のテロリズムに反対する。教会、信仰団体、教会協議会として私たちは、この地域における非武装へ働きかけ、好戦的な国々へ国家主権を尊重するよう求め、周縁化された国々の人の安全や経済的正義を促進するために手を取り合う。

私たちはアジアキリスト教協議会に以下の事を勧告する。

1. 米国政府および同盟国に韓国のチェジュ島や沖縄の辺野古での大規模な海軍基地の建設を中止するよう求める。また別の基地を京都に建設するという計画を非難するとともに、北朝鮮海域における軍事演習の中止、またこの地域における同様の行動から撤退することを求める。
2. アジア太平洋における第2次世界大戦終戦と、朝鮮半島の南北分断開始 70 周年を記念すること。世界キリスト教協議会 (WCC)、韓国教会協議会 (NCCK) が 1953 年の休戦協定にとって代わる平和条約を作成するキャンペーンをサポートするよう教会や宗教団体に要求する。私たちはまた全ての CCA の教会に韓国独立記念日 (2015 年 8 月 9 日～15 日) 周辺の 1 週間を朝鮮半島の平和と統合を祈る週間とするよう求める。
3. 憲法 9 条を変更せずに護ることに一体となって努力している日本キリスト教協議会の取り組みに全ての CCA メンバーが参加することを呼びかける。
4. ミャンマーの教会やキリスト教協議会を具体的な方法でサポートし、平和と正義のためにミャンマーの教会の取り組み、祈りを持って奨励することを確約する。また平和活動を奨励し、支持するために牧師のミャンマー訪問を計画し、ミャンマーの姉妹や兄弟を擁護することを CCA に報告する。
5. 原理主義的信仰が台頭している状況にいる姉妹や兄弟に対して連帯と懸念を表明する。

私たちは彼らのために祈る。

6. キリスト教徒が迫害されている状況にある地域を牧師が訪問することを計画し、アジアの全教会の連帯を示す。

気候における正義への取り組み

気候変動はアジアの多くの国に影響を与えている。干ばつ、洪水、サイクロンなどの自然災害の増加、食糧や水の不足、汚染の拡大、水による感染症、氷河や雪の融解や生態系の変化は気候変動がもたらしたものである。海面上昇、頻発する異常気象、雨量や気温の変動はアジアの国々に影響を及ぼしている。自分が栽培したものを生活の糧にしている人々、海岸の近くや洪水の発生しやすい所に住居のある人々は被害を受けやすい。またこの気候変動はアジアの動植物にも悪影響を与えている。

今日、世界中で約 2500 万人の気候難民がいると推測されており、その多くがアジアやアフリカにいる。2050 年までには気候難民は世界中で 1 億 5000 万から 2 億人になり、アジアがその多くを占めるだろうと推測される。最も頻繁に被害を受けるのは貧困層であり、彼らは住む場所を選ぶ自由がない。バングラデッシュのボラ島の住人はアジアの最初の気候難民の一部であると考えられている。1995 年にはボラ島の半分が恒久的に洪水状態になり、約 50 万人の人がホームレスとなった。彼らは首都であるダッカのスラムに余儀なく移動させられ、貧困生活を送っている。私たちは太平洋教会協議会とともにツバルのようなその将来が脅威に晒されている太平洋諸国を懸念している。

このようなアイデンティティの喪失、住居、田畑、家畜へのダメージは回復が困難な状況に人々を追いやる。これらの問題の根本に対処する高いレベルの取り組み、再生可能でクリーンなエネルギーの開発、人々やコミュニティに影響を与えているこれらの環境問題を軽減する戦略の促進が実現できることを私たちは願っている。

私たちはアジアキリスト教協議会に以下の事を勧告する。

1. 地域で環境悪化に対処するため具体的で人的な行動を起こしている教会や人々をサポートするために、有用な資源を開発する。
2. 気候変動の影響を継続的に調査し、2015 年パリで開催される国連気候変動会議の準備のため、世界教会協議会と取り組む。さらに温室効果ガスを削減する現実的目標を設定し、災害リスク削減策を開始し、サポートするため政府と積極的に協働する。

結論

私たちは神の家族としてともに歩むことの意味を考え理解した上で、これらのパブリック
イシューを総会へ提議した。これらの問題が真剣に祈りを持って取り組まれることを期待
している。

従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家
族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・
イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主にお
ける聖なる神殿となります。キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きに
よって神の住まいとなるのです。

エフェソの信徒への手紙 第2章 19～22節 (引用：日本聖書協会、新共同訳)